

# 情報倫理デジタルビデオ小品集 9 の制作

布施 泉<sup>1)</sup>, 多川 孝央<sup>2)</sup>, 辰己 丈夫<sup>3)</sup>, 中西 通雄<sup>4)</sup>,

中道 上<sup>5)</sup>, 匹田 篤<sup>6)</sup>, 和田 智仁<sup>7)</sup>

1)北海道大学 2)筑紫女学園大学 3)放送大学 4)追手門学院大学

5)福山大学 6)広島大学 7) 鹿屋体育大学

ifuse@iic.hokudai.ac.jp

## Development of J-Rinri Digital Video 9

Izumi Fuse<sup>1)</sup>, Takahiro Tagawa<sup>2)</sup>, Takeo Tatsumi<sup>3)</sup>, Michio Nakanishi<sup>4)</sup>,

Noboru Nakamichi<sup>5)</sup>, Atsushi Hikita<sup>6)</sup>, Tomohito Wada<sup>7)</sup>

1) Hokkaido Univ. 2) Chikushi Jogakuen Univ. 3) The Open University of Japan 4) Otemon Gakuin Univ.

5) Fukuyama Univ. 6) Hiroshima Univ. 7) National Institute of Fitness and Sports in Kanoya

### 概要

大学 ICT 推進協議会情報教育部会情報倫理デジタルビデオ制作タスクフォースでは、情報倫理デジタルビデオ小品集 9 を制作している。前作の小品集 8 は、COVID-19 によるパンデミックのため、撮影現場とタスクフォースメンバーをオンラインで結んで全面的に遠隔から指示する方法で制作したが、今回の制作では対面とオンラインを併用した。本稿では、小品集 9 の制作過程とともに、新規制作中の 8 編について紹介する。

## 1 はじめに

2024 年 10 月現在、著者らは、大学 ICT 推進協議会（以下、AXIES）情報教育部会の下、情報倫理デジタルビデオ制作タスクフォース（以下、TF と記す）として、情報倫理デジタルビデオ小品集 9（以下、小品集 9 と記す）の制作に携わっている。本シリーズの制作は、2002 年に国立大学情報処理教育センター協議会（当時）と独立行政法人メディア教育開発センター（当時）との共同事業としてはじめられた。その後、両組織とも新しい組織に変わったが、20 年以上にわたり、継続的な制作を行っている。企画・開発組織の変遷等については、参考文献[1]を参照されたい。

この 20 年の間に、科学技術の進展とともに国による目指すべき社会のあり方も大きく変わっている。2021 年 3 月 26 日に閣議決定された第 6 期の科学技術・イノベーション基本計画における「第 1 章基本的な考え方」の「現状認識」における前文を下記に引用する[2]。

第 5 期基本計画の策定時には、情報通信技術（ICT）の急激な進化によるグローバルな産業構造の変化やセキュリティ問題などのネットワーク化への対応、また、地球規模で

起こるエネルギー・資源・食料等の制約や環境問題、さらに、国内における少子高齢化や地域経済社会の疲弊、自然災害等のリスクが大きな課題として認識されていた。

これらの課題はいずれも、現在も引き続き重要であることは論をまたないが、この 5 年間に生じた特筆すべき新たな社会の変化としては、世界秩序の再編、現実の脅威となったグローバル・アジェンダ、情報社会（Society 4.0）の限界の露呈\*が挙げられる。そして、これらの変化を、新型コロナウイルス感染症の拡大が加速させている。

※本文には、IT プラットフォーマーによる国際的な情報独占への懸念、情報弱者、富の「格差」「社会の分断」「将来への不安」等が記載  
また、知的財産推進本部による知的財産推進計画 2024 では、デジタル化・DX 化の進展や生成 AI の急速な発展による変化が取り上げられ、知的財産の創造、保護、活用、および人材育成を総合的に考える「知財エコシステムの再構築」について述べられている[3]。

デジタル化、オンライン化が、社会における多くの処理の前提となり、また、AI を含む、さらなる科学技術の進展の中で、時代の要請に応じた大

学入学生向けの情報倫理教材を継続的に開発・提供していくことの意義は大きいと考える。

小品集9では、8編の映像教材を制作中である。各映像の所要時間と概要は、付録1にまとめた。

2章では小品集9の制作スケジュールと利用システム等を紹介する。また、撮影時に対面とオンラインを併用したメリットに言及する。3章では、今後の課題として、小品集9制作を踏まえ、望ましい制作と提供のあり方について検討する。

2 小品集9の制作

2.1 制作TFメンバーの確定

大学ICT推進協議会情報教育部会の下で、制作タスクフォース（TF）を結成し、各回の制作が開始される。小品集9は2024年1月に、AXIES会員校へ制作メンバーの募集を行った[4]。また、小品集8の著作者には別途、小品集9への参加の可否について照会した。最終的に本稿の著者7名による共同制作として行うこととなった。

2.2 制作に関する議論に用いるシステム等

オンライン上の議論を行うに際し、Slack、Googleドライブ、Zoom等を用いて制作を進めた。Slackは、TFのみが確認できるように設定している。映像制作業者を含めた情報の共有はGoogleドライブを利用している。例えば、シナリオのやり取り、オーディション映像、撮影時に用いるスマホやPC画面の確認、撮影映像（第一試写から第三試写までの3回を予定）、ナレーション候補者の情報、DVDジャケットの確認などは、Googleドライブ上で行っている。

2.3 制作スケジュール

小品集制作の正式決定は、AXIESの5月総会後という制約がある。一方で、完成は12月中旬の年次大会までが望ましいことから、制作スケジュールは非常にタイトである。大まかなスケジュールを表1に示す。

小品集8の制作時は、COVID-19の影響もあり、全オンラインで進めた[1]が、小品集9では、現地とオンラインとを併用して制作を進めた。

俳優のオーディションは、TFの4名が現地で立ち合い、状況を確認した上で、最終的にはSlack上で俳優を決定した。また、4日間の撮影については、交代でTFの3-4名が現地立ち合いを行った。MA（Multi Audio：ナレーション等の音を入れる作業）は、11月某日、TF全員が現地に集合する予定で調整している。なお小品集9では、明治大学を

借用しての撮影を2日間行っており、久しぶりに大学キャンパスでの映像が収録されている。

表1 小品集9の制作スケジュール概要

5月	・キックオフミーティング（Zoom） ・ネタだし（最終的に全8編） ・テーマ案の確定、担当決め
6月	・担当によるシナリオ原案の作成（メインキャラは女性2名、男性1名） ※原案に関するTF間の意見はSlackに記載しZoom打合わせでも意見交換
7月	・TFから業者へのシナリオ原案送付 ・業者からTFへのシナリオ案返却
8月	・シナリオ修正（TF⇄業者） ・オーディション（TF4名が参加） ・鹿屋でのTFミーティング ・シナリオ確定（解説の天の声以外）
9月	・撮影立ち合い（現地+Zoom） ・フリップ・学習のポイントの作成
10月	・第一試写確認、修正依頼 ・第二試写確認、修正依頼
11月	・映像最終確認 ・解説の内容の最終確認 ・MA（Multi Audio ナレーション等音入れ） ※TFは現地集合
12月	初旬完成（予定）

2.4 小品集制作における対面・オンラインの選択

本小品集の制作においては、小品集1の当初から、TFは現地での立ち合いを行ってきた。実写映像による学習教材であり、大学の教育現場におけるリアリティを追求したいというTFの意図があったことによる。例えば、出演俳優のセリフにおける技術用語のイントネーションや、PC等を使った動作に不自然な点がないか等のチェックは、撮影時に即時に指示を行う必要がある。そのため、TFの複数のメンバーで立ち合いを行ってきた（小品集2では、正しい指使いでキー入力ができなく、萎縮した俳優の代わりに、別人の指だけ撮影したこともある）。リアリティにこだわった実写映像は、大学生である学習者が、出演俳優に自身を重ね、自分ごととして、トラブルを体験できる可能性を持つ学習教材として、現在も有用であると考えている。

しかし、長期間の撮影の場合、全期間の立ち合いは難しいため、小品集7までは、TFの複数のメ

ンバーが交代で立ち合うことで対応を行ってきた。また、前回の小品集8では、前述の通り全てオンラインで行った。今回の小品集9では、現地とZoomを併用しての実施を試みた。結果として、これまでの小品集制作における良いところ取りをしたと感じている。今回、対応するTFメンバーが撮影現場にいることにより、映像業者、演者と、TFとのコミュニケーションが非常にとりやすかった。撮影当日のSlackでのやり取りの例を図1, 2に示す。現地に来られないTFも、Zoom上から撮影確認ができることから、撮影時のチェックと意見交換をZoomならびにSlackを介して行った。判断に迷う内容については、Zoomで対応をしているTFを含めて相談を行うことができ、スムーズな対応ができた。結果として、現地とオンラインの両方の長所を生かした、バランスの取れた撮影立ち合いになったと考える。

2024年12月12日の情報教育部会による年次大会企画セッションでは、小品集9の新作お披露目を行うが、この企画には、出演俳優を招く初めての試みを行うこととしている。これは、出演俳優や映像業者との雑談を含めたさまざまな話しができたことから実現したことでもある。

また、TFメンバー間の打合せも、Zoom等のオンラインのみならず、集合して議論を行う機会を8月末に設定した。シナリオ確定前後の時期で、ちょうど判断が微妙な案件が発生しており、メンバー間の速やかな意思疎通と合意形成に非常に役立った。対面集合が必要な時期を予想して、早くから日程調整することで実現した打ち合わせであったが、短時間であってもこのような対面打ち合わせには効果があったと判断できる。



図1 スタジオ撮影とSlack上のやり取り例



図2 大学での撮影とSlack上のやり取り例

## 2.4 テーマの策定

小品集9は、予算と制作日程の関係から、定まったクリップ数を想定して制作を開始する。表1に示した通り、小品集9ではスタートアップ時点で、8編の制作が決まっていた。3年ぶりの制作であり、ネタ出しで出された内容は多岐にわたり、様々な候補があった。映像化した際に大学1年生に理解できる内容であるか、映像の寿命（陳腐化）がどの程度であるか、これまでのビデオで対応可能なものがあるか否か、等を鑑み、最終的には、以下のタイトル（※はキーワード的内容）の8編の制作を行うこととした。

1. たかがパスワード、されどパスワード  
※パスワード、フィッシング
2. 本人確認、スマホは大事  
※二段階認証、多要素認証
3. つたわらない愛情コメント  
※ネットでの受け手の解釈の違い、誹謗中傷
4. ネットの中では大反響！？  
※エコーチェンバー、フィルターバブル
5. 著名人のおすすめは信頼できる？  
※著名人 SNS 詐欺、副業詐欺、ダークパターン
6. 見せていいもの、いけないもの  
※プライバシー侵害
7. AIのおかげで絶好調？  
※対話型 AI、ハルシネーション、AI 規則

## 8. ストーリーが勝手に変わってたの

※著作権者人格権、秘密保持契約

## 3 小品集制作の今後の課題

2 章で示した通り、本小品集の制作には種々の制約があり、短期間で進めざるを得ない状況にある。しかし本来は、「はじめに」で述べたような情報化の進展等による様々な社会状況の変化を踏まえるとともに、対象となる学習者の置かれている状況を具体的に調査し、小品集を利用している大学教員等からのフィードバックを得ながら、制作を進めていくことが望ましいと考える。

また、学生に必要と考えられるテーマを小品集の制作と切り離し、継続的に収集できるような環境があれば、小品集制作の際に、シナリオ制作が行いやすくなる可能性もある。例えば、本小品集は、多数の大学や大学生協の PC を購入した学生等に利用されており、それら利用者からの声、例えばビデオを視聴した際の感想や疑問等の意見を直接収集できるような窓口ができればと考える。このような環境整備を含めた小品集制作の支援が望まれる。

著者らのハンドリング可能な範囲では、本制約の下で映像化できる本数は 8 編が限界であるものの、小品集を利用されている大学では、その他の関連資料や評価のための設問設定等を行っているのではなかろうか。そうであれば、それらの知見を収集・共有する中で、さらなる展開やチームの形成ができないものかと考える。

小品集の制作が開始された 20 年前は、授業で用いることのできる素材開発を趣旨に、ビデオクリップ集として開発を行った。その後、20 年が経過し、現在は、各大学で LMS の利用がなされている状況にある。クリップ集だけではない、学習環境一式の提供が求められる時期に来ている可能性がある。

また、本小品集は大学 1 年生を対象としたものとして制作しているが、現実のニーズはどのようになっているかも気になるところである。実際、著者らがテーマ選定の相談をしている折には、大学 1 年生向けの教材としては向かないが、上級生に対しては適する内容が含まれることもあった。

AXIES 情報教育部会と連携を取りながら、今後のよりよい小品集制作のあり方、教材提供のあり方等について検討していく。

## 謝辞

本小品集の制作に関しては、映像制作業者の株式会社パフォーマ様に、撮影時の TF 立ち合いや Zoom 設定等をはじめ、各種支援を受けている。

## 参考文献

- [1] 上田浩、川原田剛士、多川孝央、辰己丈夫、中西通雄、中道上、匹田篤、布施泉、和田智仁、全面オンラインによる情報倫理デジタルビデオ小品集 8 の企画と制作、大学 ICT 推進協議会年次大会、WC2-1、2021。  
<https://axies.jp/files/conf/conf2021/paper/WC2-1.pdf> (2024 年 10 月 21 日閲覧)
- [2] 閣議決定、科学技術・イノベーション基本計画 令和 3 年 3 月 26 日、pp.6-7 参照、2021。  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf> (2024 年 10 月 21 日閲覧)
- [3] 知的財産推進本部、知的財産推進計画 2024、2024 年 6 月 4 日、2024。  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/chitekizaisan2024/pdf/siryou2.pdf> (2024 年 10 月 21 日閲覧)
- [4] AXIES 情報教育部会、「情報倫理デジタルビデオ小品集 9」制作メンバーの募集、2024 年 1 月 15 日、<https://ite.axies.jp/news/1473/> (2024 年 10 月 21 日閲覧)



付録1 新規クリップ8編の所要時間（変更可能性有）と概要

	タイトル	物語	解説	概要
1	たかがパスワード、されどパスワード	1 分半	9 分半	<p>薫と茉奈は、パスワードについて使う文字種類を増やすほうがよいか、それとも文字列を長くするほうがよいか話し合っている。総当たり攻撃に対してはどちらがおすすめだろうか？ また、パスワードを使いまわさないように、サイトごとにパスワード文字列を変えているが、それらのパスワードはどうやって管理すればよい？</p>
2	本人確認、スマホは大事	2 分半	5 分強	<p>薫は大学のシステムにログインしたが、外部サービスへのログインができずに困っている。翔平が二段階認証のためにスマートフォンが必要であると説明し、薫は電話番号を変更したことを思い出す。パスワードだけで十分なはずなのに、ログインにスマートフォンを使うのはなぜだろう。それには、セキュリティに関する状況の変化とスマートフォンの普及という背景が…</p>
3	つたわらない愛情コメント	3 分弱	3 分弱	<p>話題のカフェで談笑中の翔平、茉奈、薫。その場でカフェの感想を書き込んでいる翔平に、下書きの文章を見せてもらった薫と茉奈は、その内容に困惑する。果たして翔平の書いたほめ言葉は伝わるのか？ 読み手に役立つ情報ならば、自由に書いていいのか？ ネットの自由とはどういうものだろうか？</p>
4	ネットの中では大反響！？	3 分	4 分半	<p>世間でバズっているというダンス動画が翔平、茉奈、薫の話題にあがる。しかし、翔平と薫が考えた「話題のダンス」は別のものだった。翔平は、自分の周りではそのダンスの話題でもちきりなのになぜ茉奈と薫はそのダンスを知らないのかと不思議に思う。</p>
5	著名人のおすすめは信頼できる？	2 分半	4 分強	<p>茉奈・薫・翔平は学食で雑談中。茉奈が SNS 広告で見つけたアルバイトを始めるらしいので状況を聞いてみた。話を聞いてみると有名人がお勧めしているから始めてみようとしているところらしい。でも先にいろいろな費用の支払いが求められており、詐欺ではないかと考え始める。</p>
6	見せていいもの、いけないもの	3 分半	4 分弱	<p>大学の様子を SNS に公開して称賛されたい翔平、リアルな日常をネットに晒したい薫。他人に見せていいもの、いけないものは一体なんだろう？</p>
7	AIのおかげで絶好調？	3 分弱	6 分半	<p>対話型 AI「おかん」に夢中の翔平。課題でも人生相談でも、何でも AI おかんに頼ってしまう。そんな毎日の中、AI おかんとやり取りから、入力データに気を付けてという回答が。みんなのプライバシーの情報を入れてしまっていた翔平は？</p>
8	ストーリーが勝手に変わったの	2 分半	3 分強	<p>翔平、茉奈、薫の 3 人は、茉奈の書いた小説のコンクール入賞と作品の演劇化を祝ったところだ。その翌日、演劇を観てきた茉奈が暗い表情で翔平の前にあらわれ、「ストーリーが勝手に変わったの」と小説の改変をなげく。翔平は改変を知らずに黙っていたことを認め、それを茉奈が問い詰める。</p>